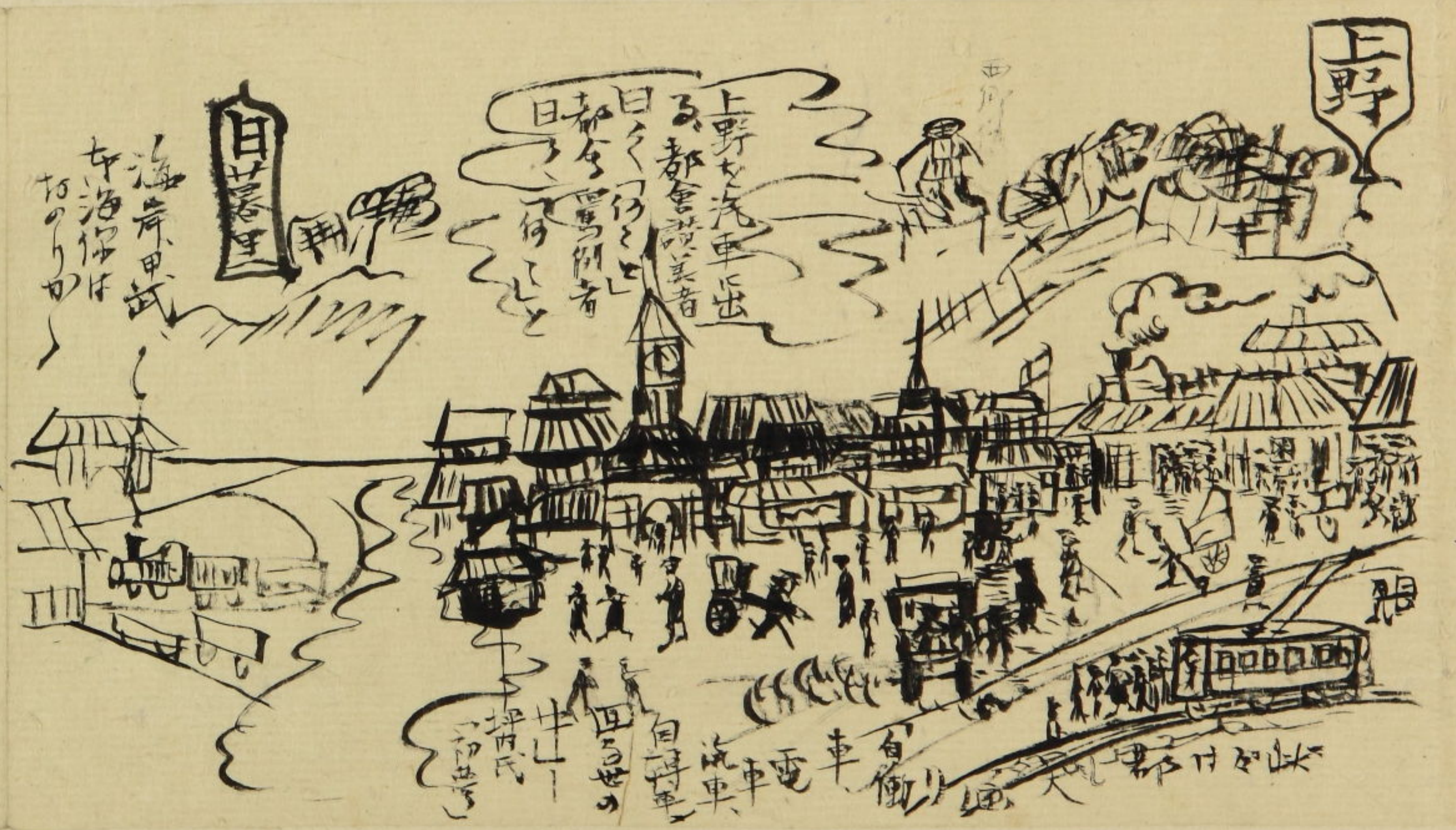


上野新汽車子古圖繪

新上野 作 者 辰 屋 工 人





上尾



氷川神社

世の常
大宮

浦和

中山
奥羽の全境

大宮工場

塔
王

歳



赤羽

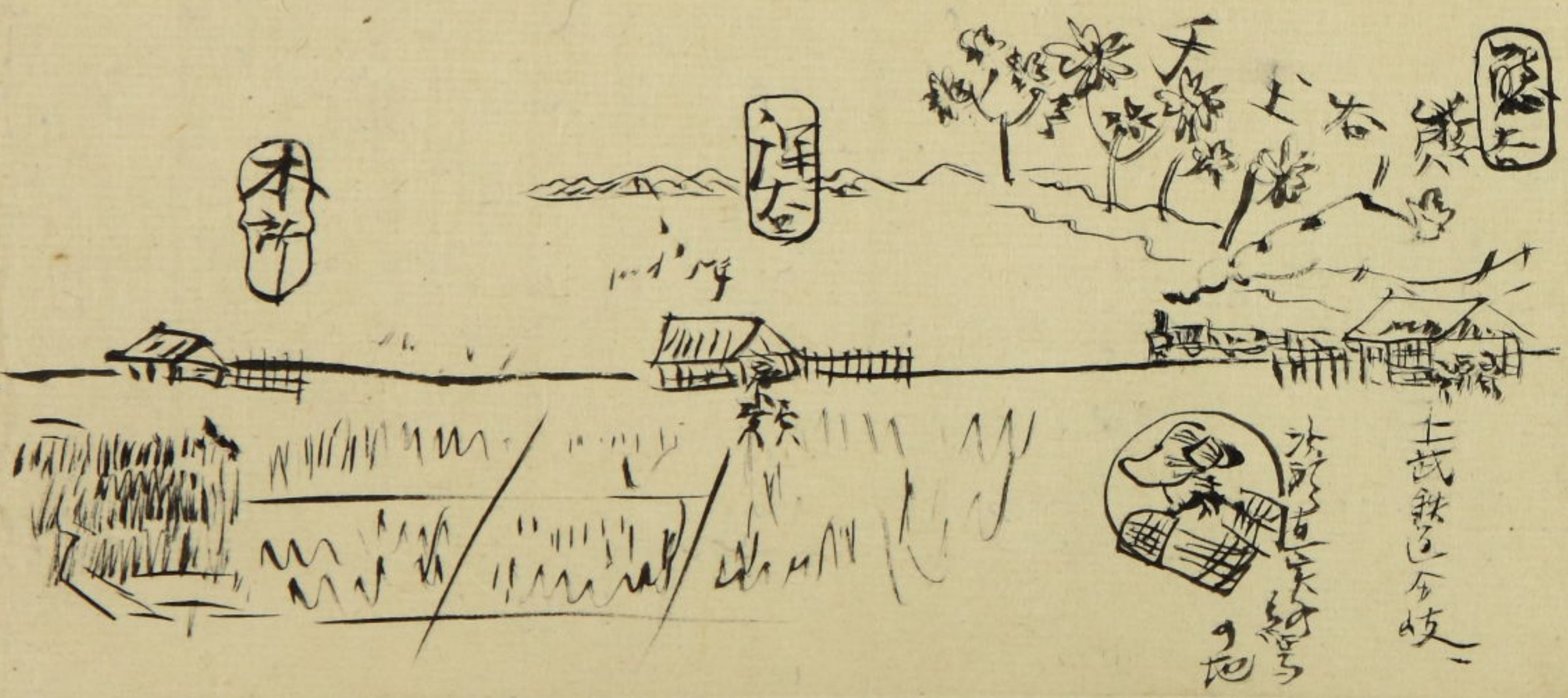
赤羽

三日月
リ田畑にて
南東平野
即十二水なり

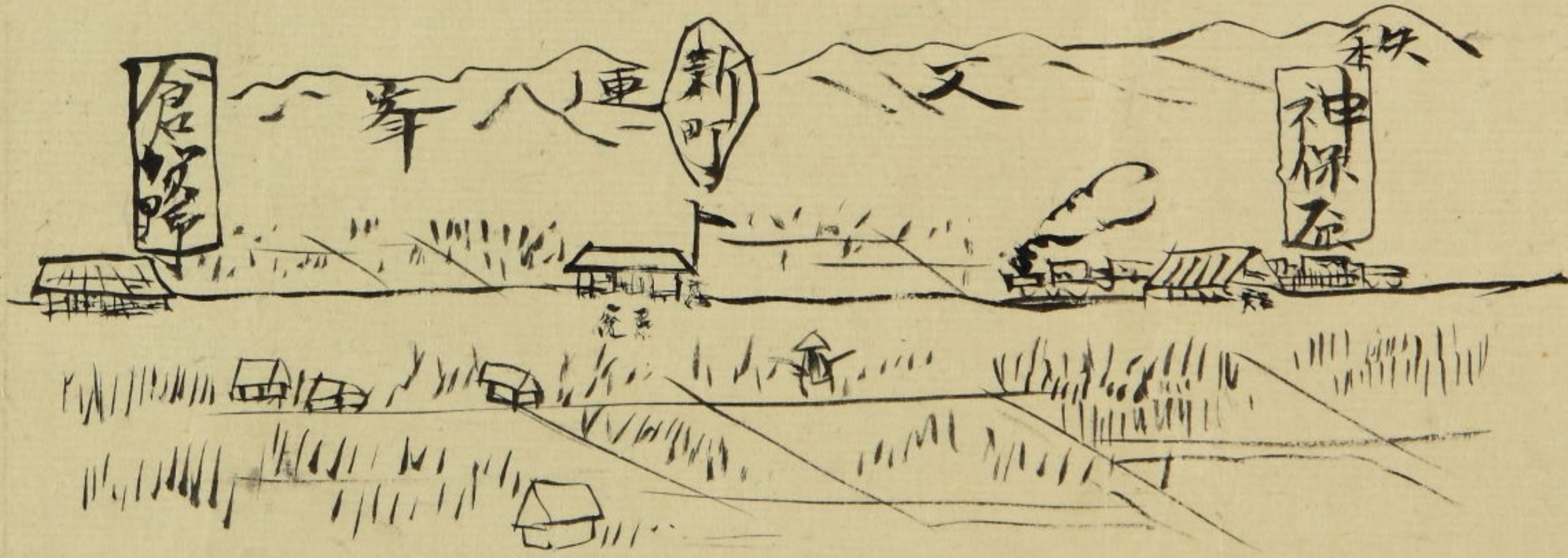
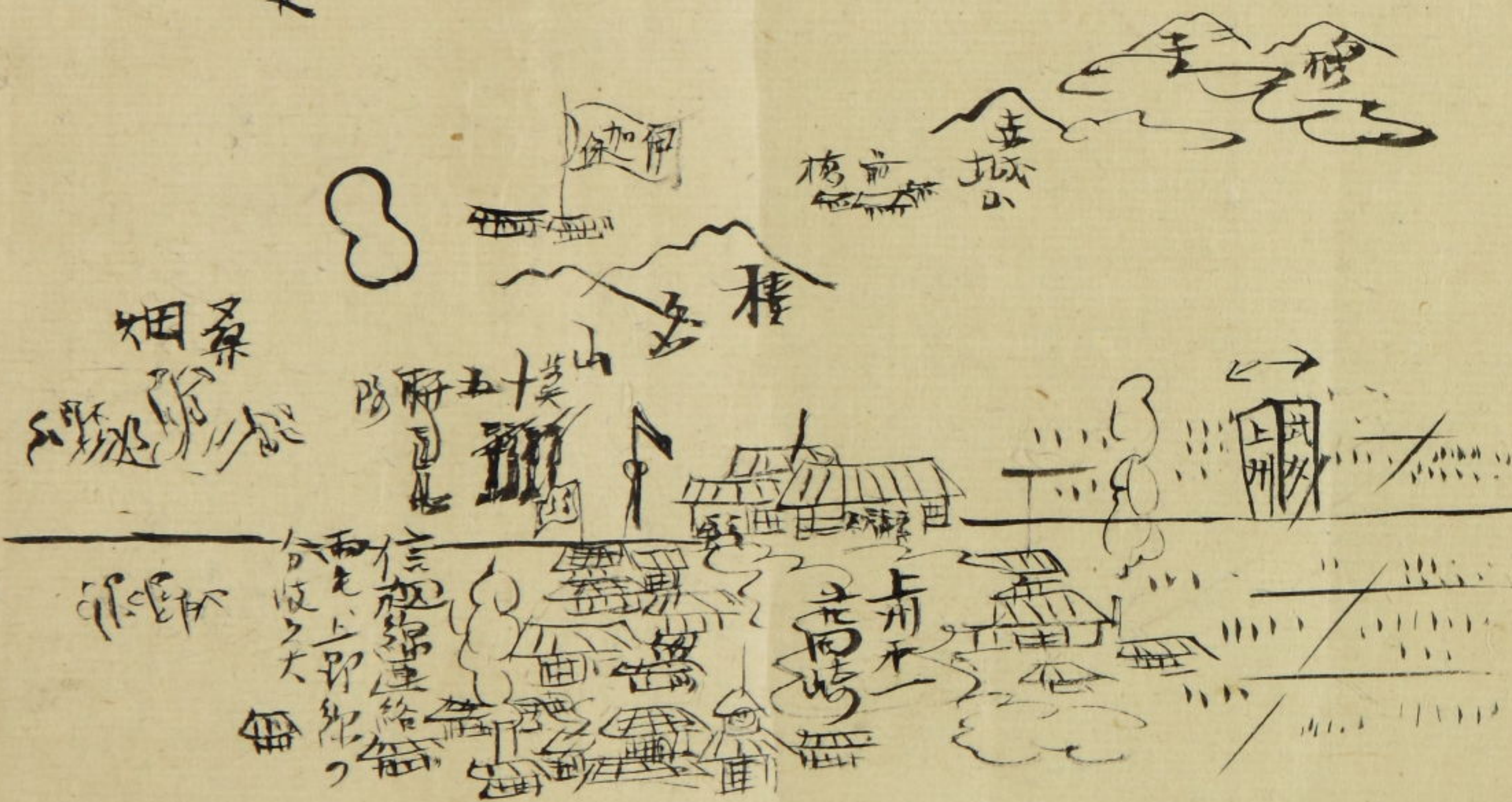
赤羽
アノリカ

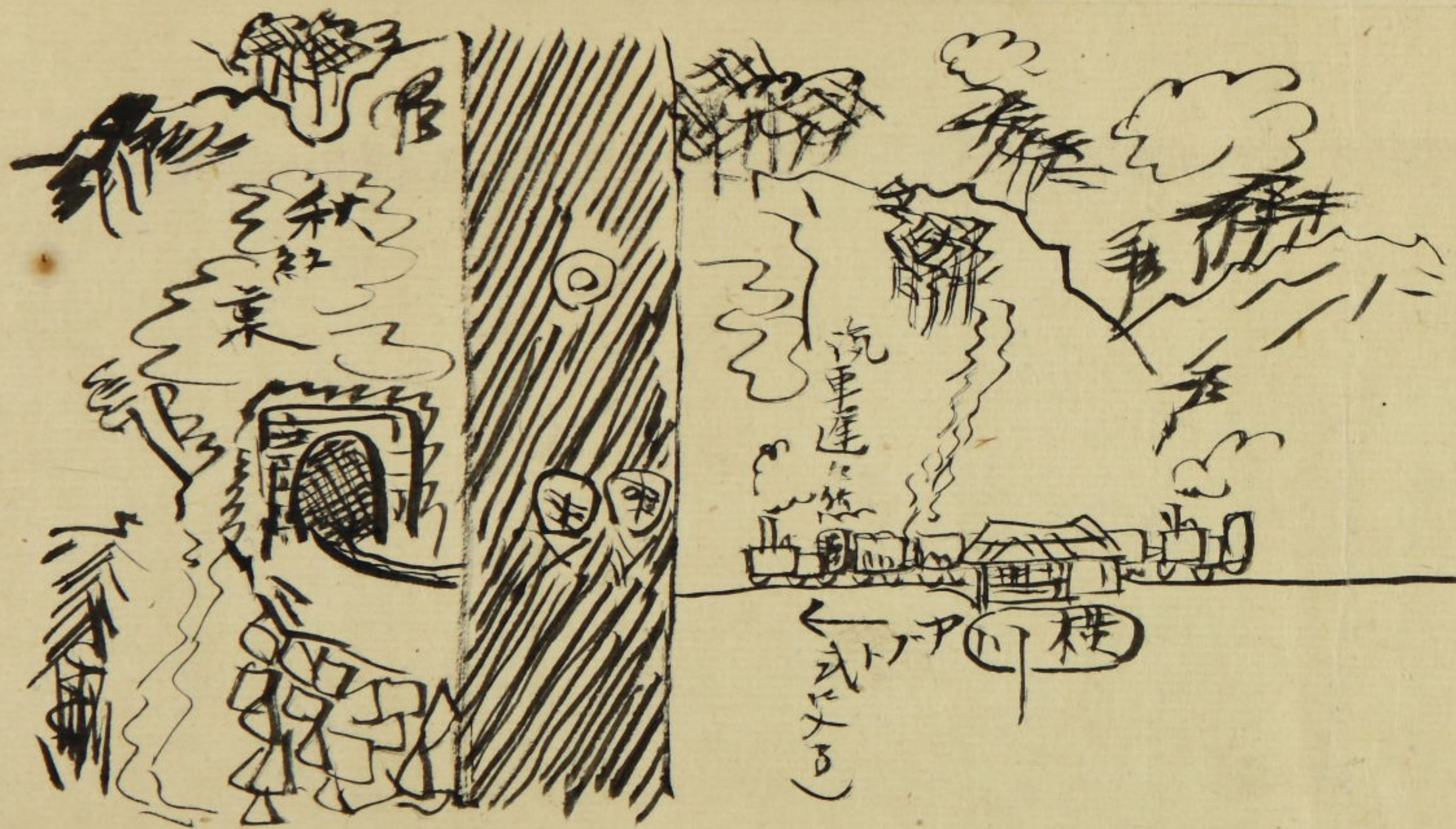
赤羽の
あまの
おのり葉の
赤羽
大宮氏

赤羽

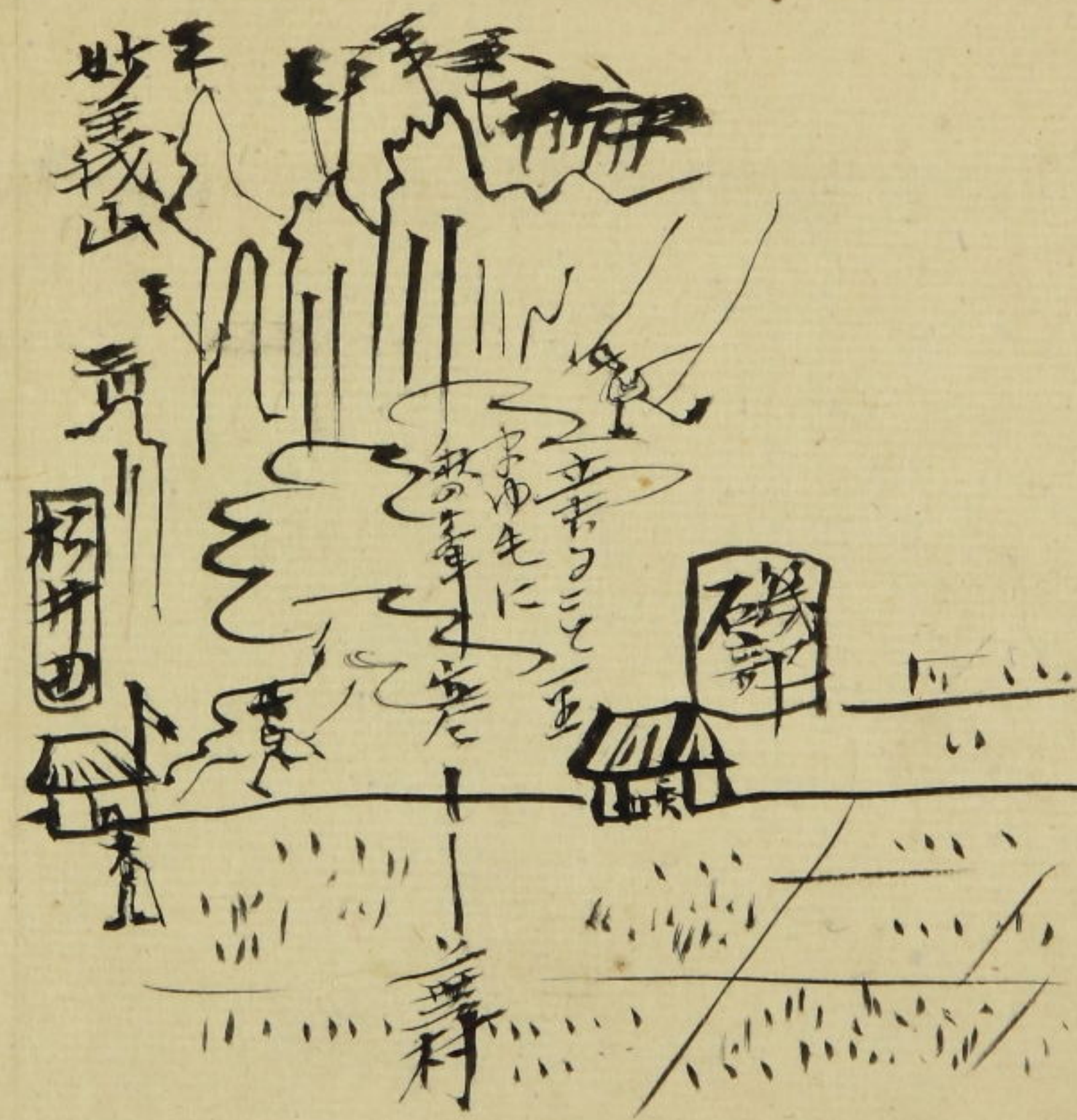


秦





汽車運送
←アア川様
(式たて)



妙義山
阿阿川様

香
地
地味倍々
香の味も亦
ばてきまらぬ
にたしくち
の半板綴る女も
見まきらかたり
—— 某の池の中

見まき限
り青りこ
若葉改
うつ桑畑
山のおとせ
春を春の
まひんし
まはるし
—— 大塚氏

春
畑桑
——
——

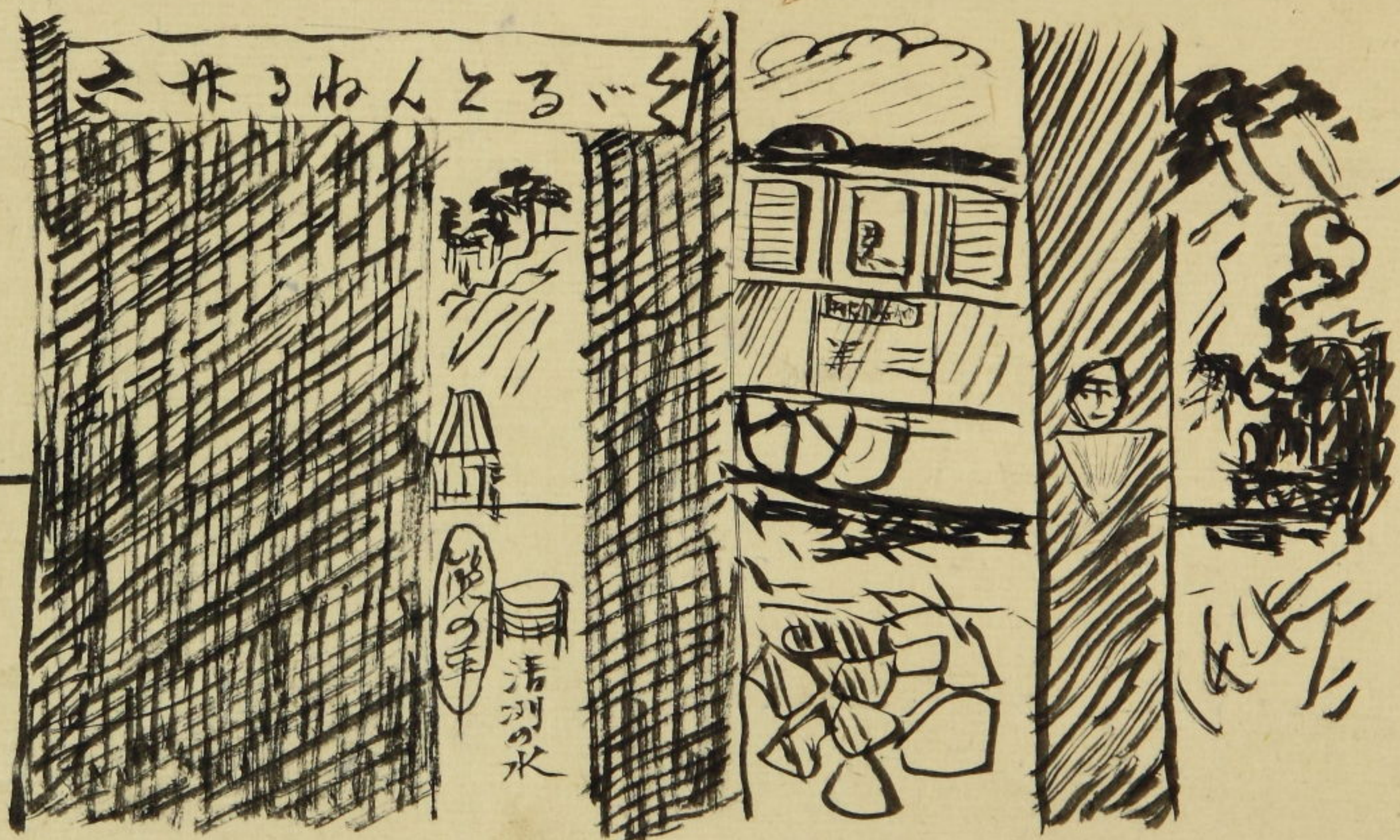
我尚書共々
 豊厚の店 決向
 指を和ませる
 の感傷
 は使はず
 作出来ていゝ勿論
 詩歌的でない
 古代的なものである。



分途
 野をす
 一 決向山に
 登るため軽井沢
 下車した。
 氷のふるるを
 氷の杖がすれて
 カラーンカラーンと
 鳴る。鳥の
 音表たさる。

是の式アリ
 地暑

是の田
 列車は山回りに
 入って目に入る



之井のわんとの

清洲の水



別事の出回りに
入て目にする

のは多クアツて
いまる

此のあたり
朝早くも妙子
少業霞の
白映して妙
なまこわら

帯木港に帯

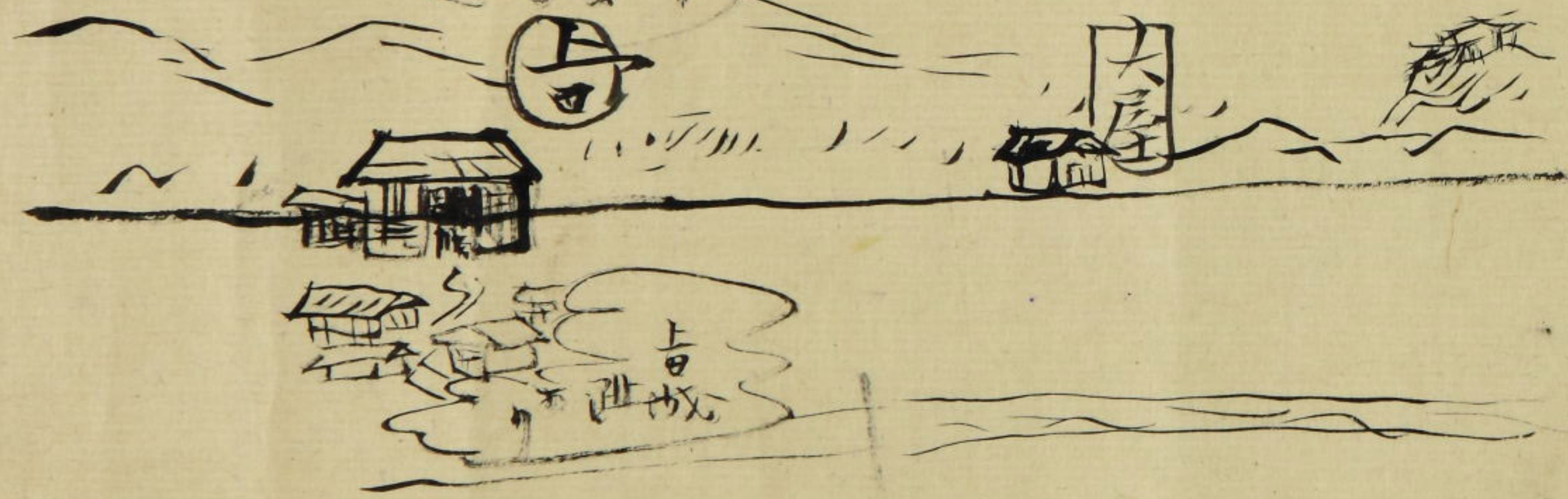


二のあたりは

信州の最も
あり所のあり
高名ある
西部中央
約々まてな△
云々あり



△此のあたりは
このあたりは
いかにあり
またあり



我々が九州

いひゆるし
連綿とある

我輩は信州
の名市である

諸君が信州に来る南東
の山を越すと全宿
の心を見よ

猿ヶ岩

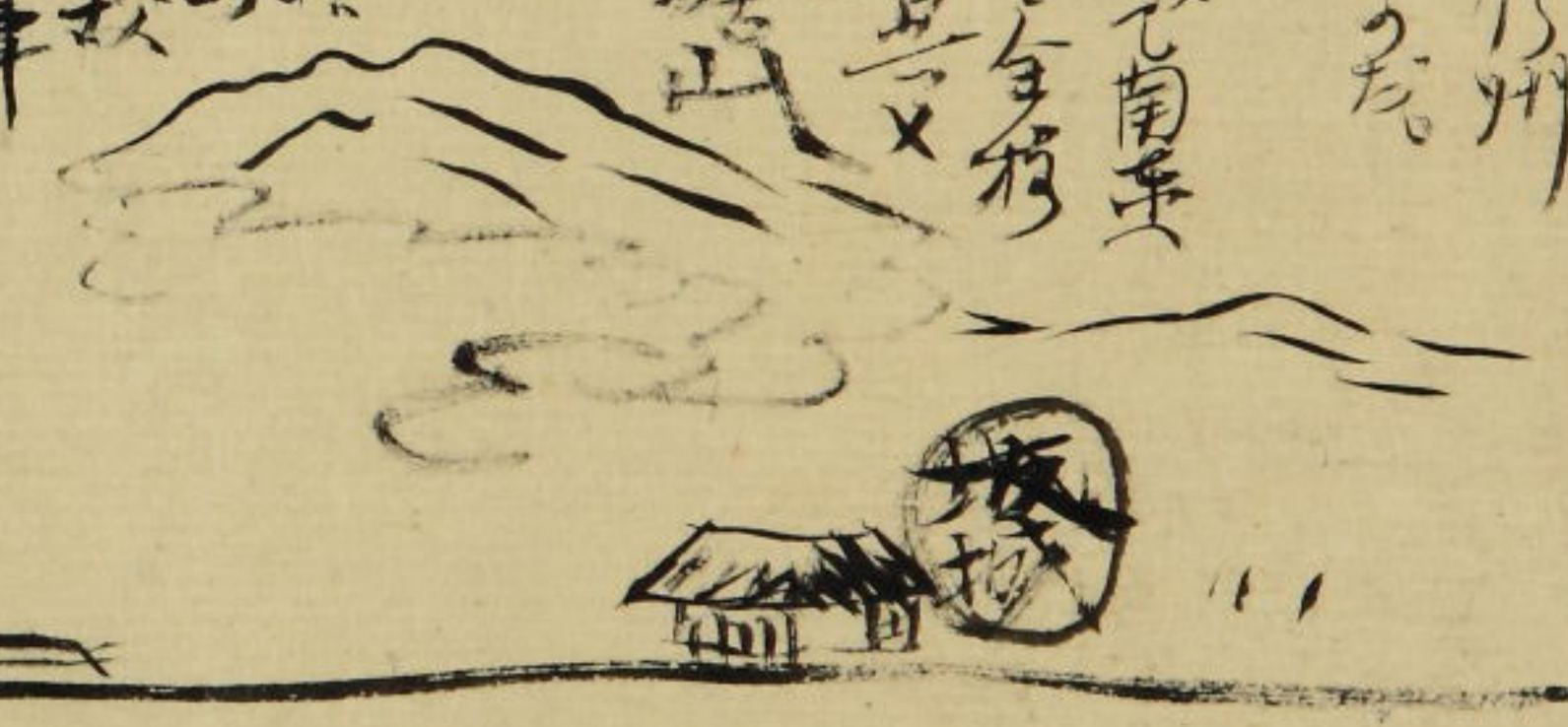


車

にすゝ天に上州
に入つて見る

と更にも遠く
而も舟中も活動的な思想で
ある

か辰は信州に来て
の修井ありまて
漁川は信州に来る



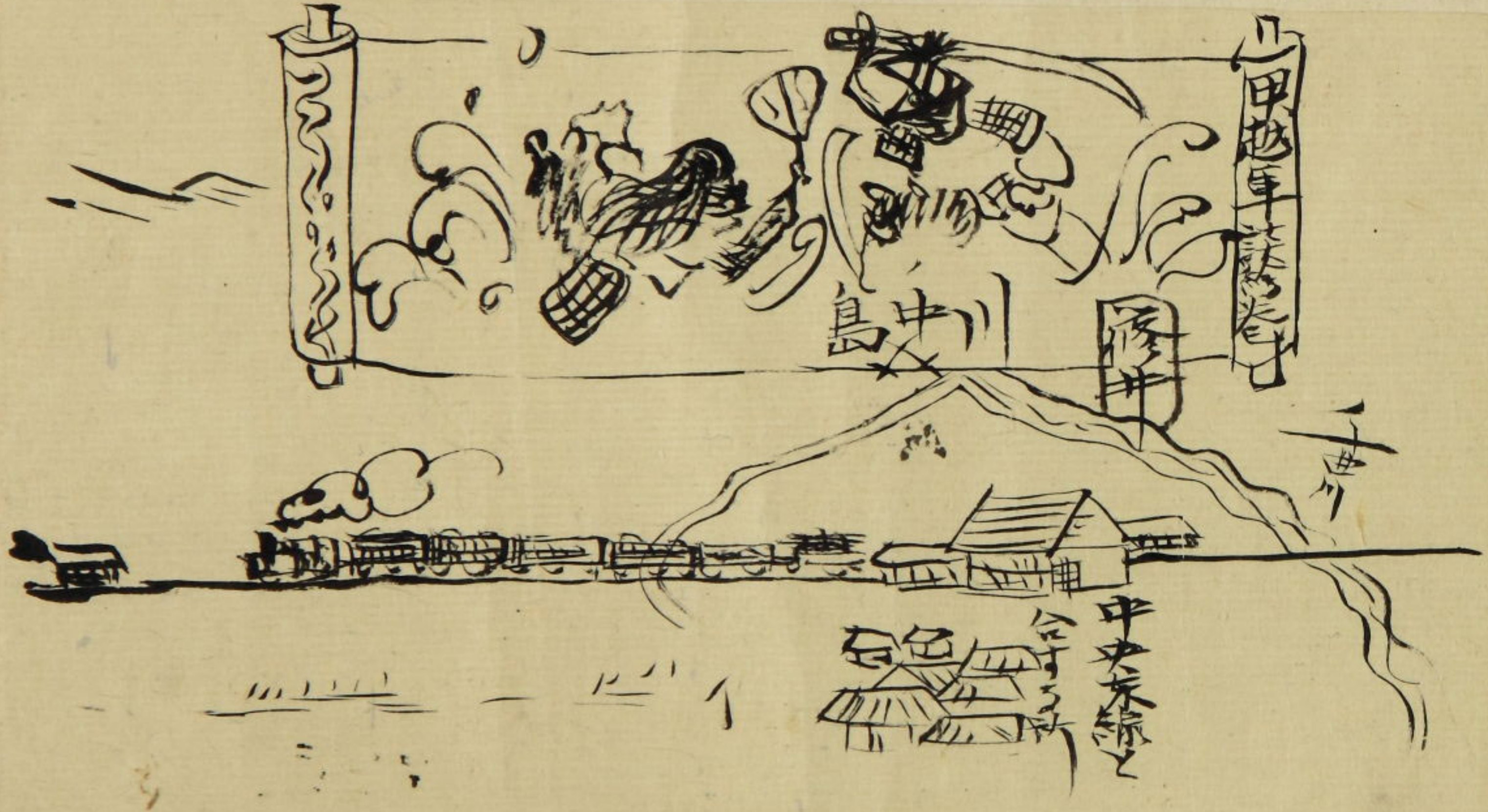
佐々向
一先あり



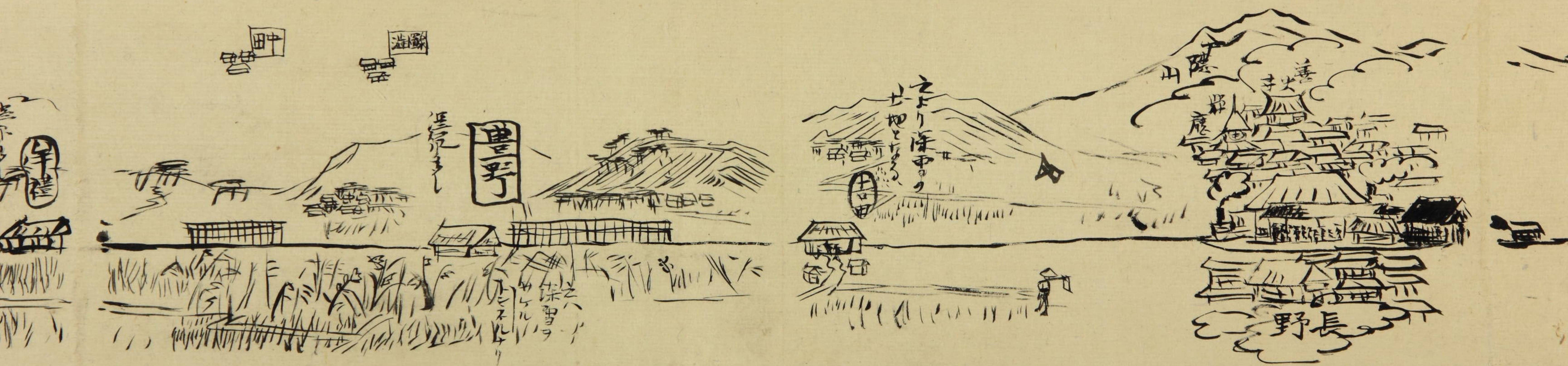
甲越軍

島中川

甲越軍



甲越軍
合



中野

善火寺

延元

豊野

之より河の中
七知とある

山陰

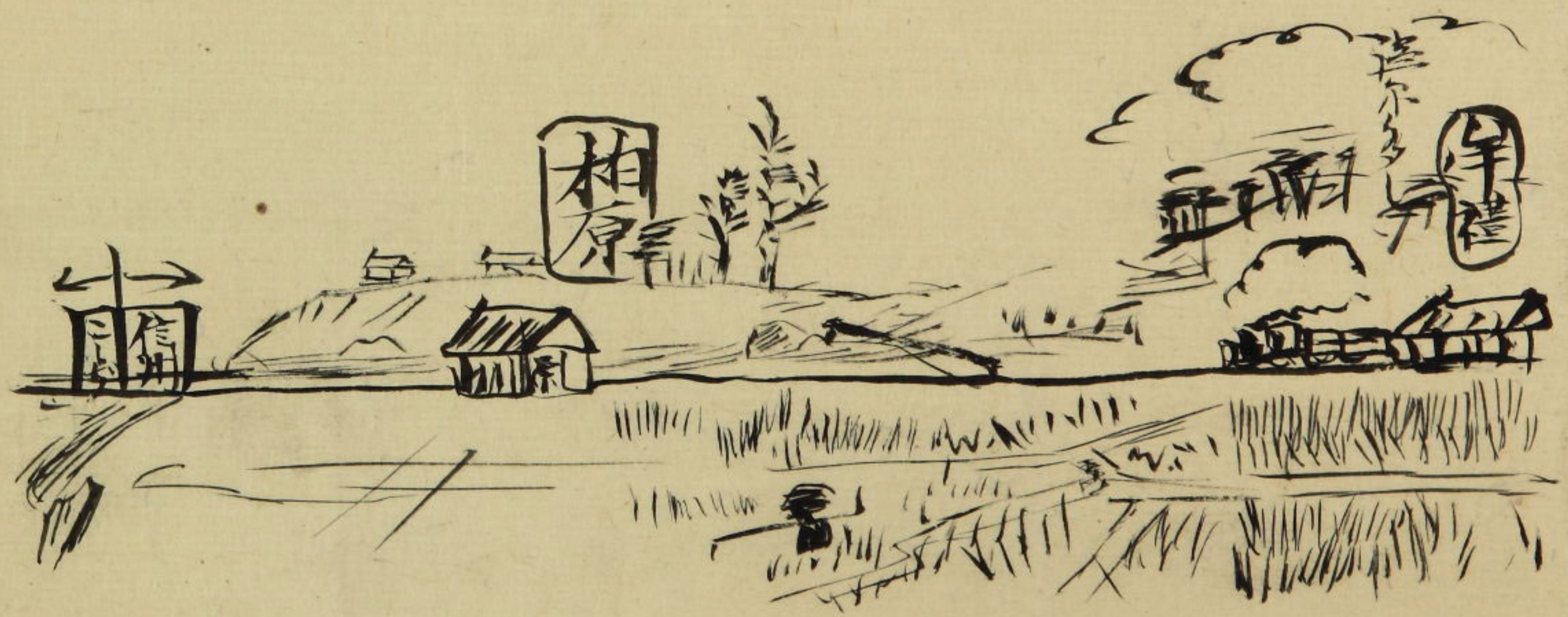
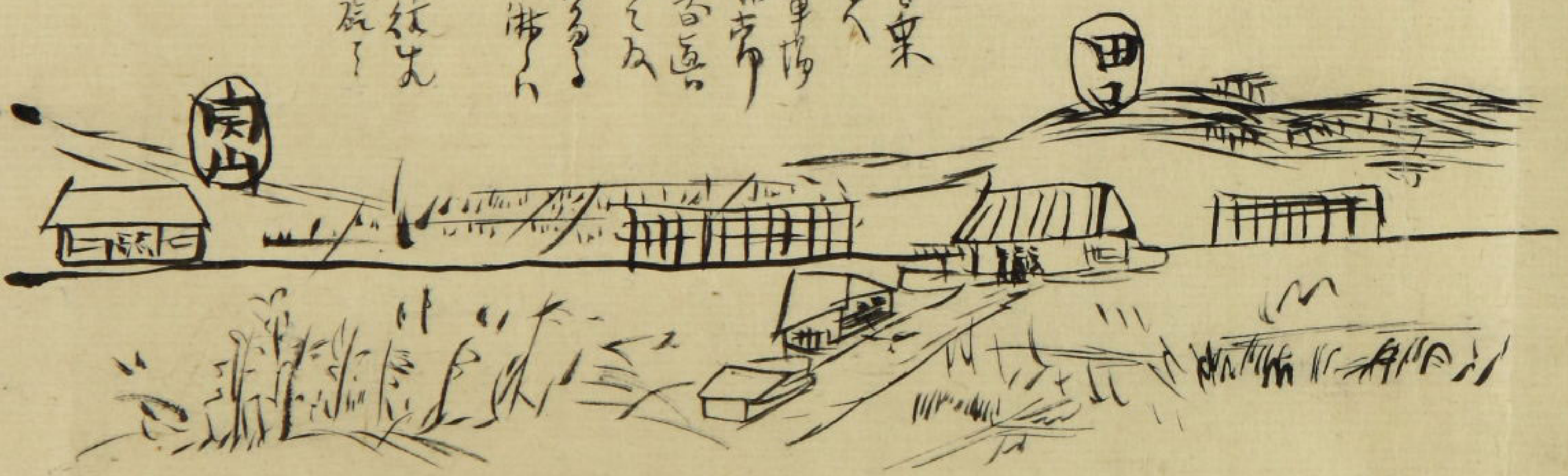
善火寺

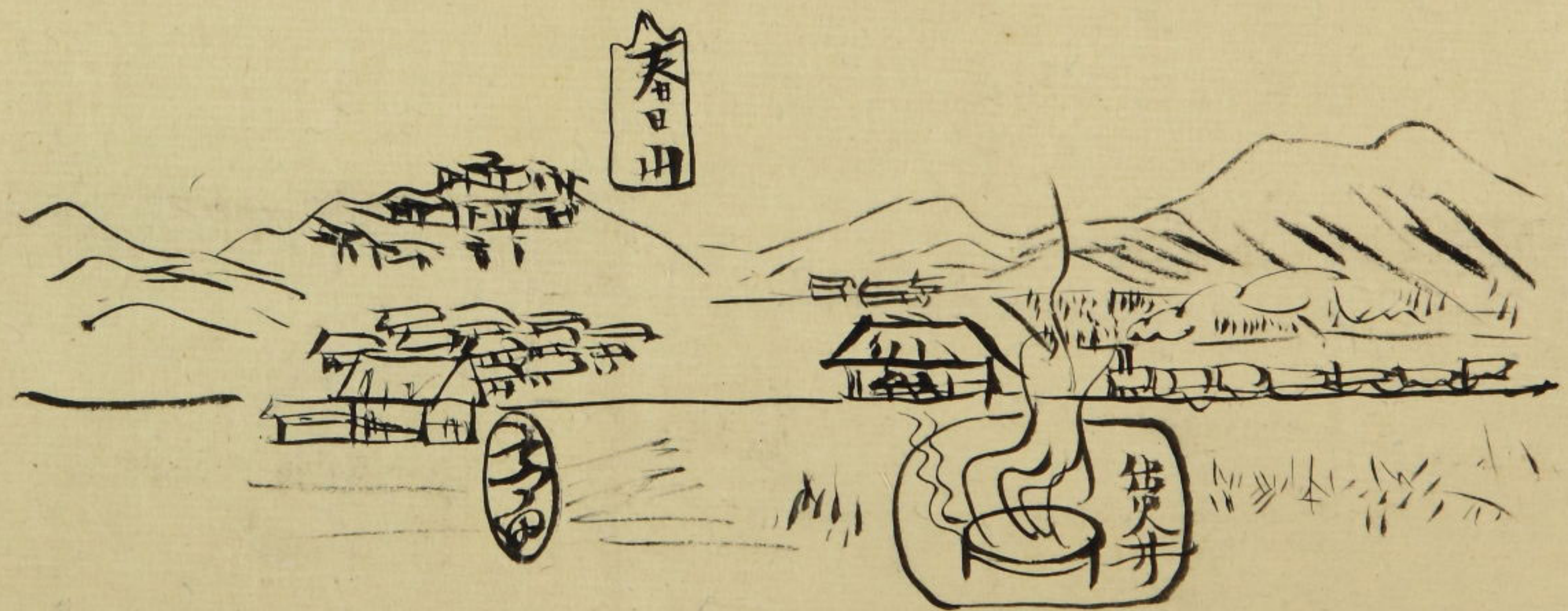
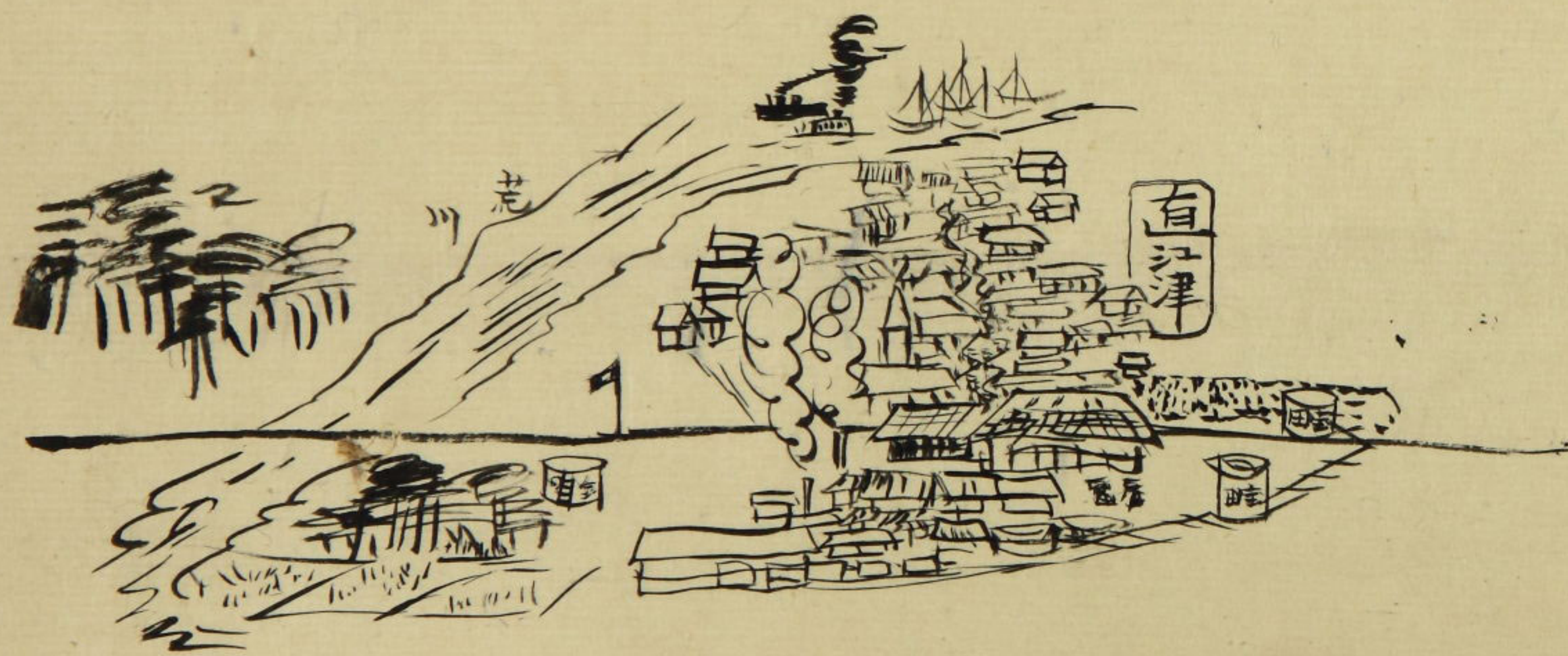
郡

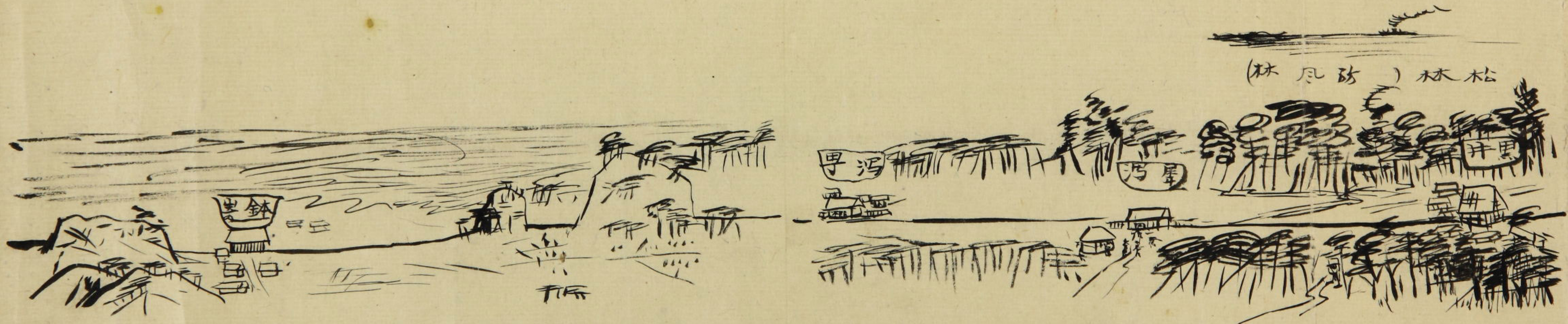
庄

長野

冬此のあたりを東
 車して見るよ
 停車場から停車場
 への向は林帯
 小あふまは共区
 つ白く埋まてく
 る。この元は
 中と行く。お淋
 しい家
 小と汽車の言は
 たりる……





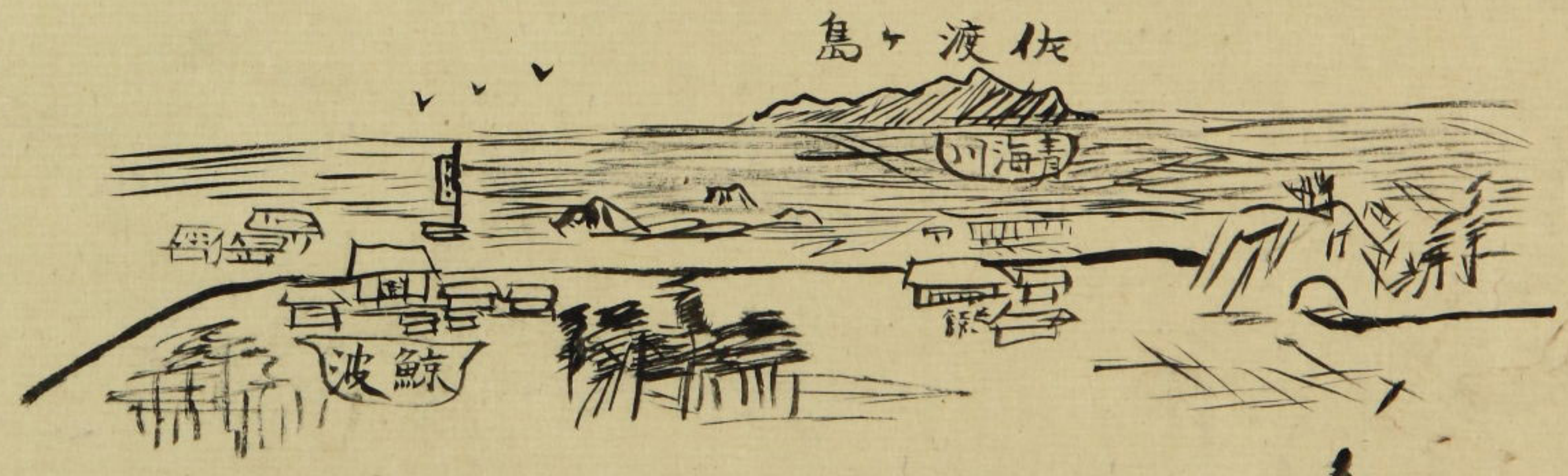
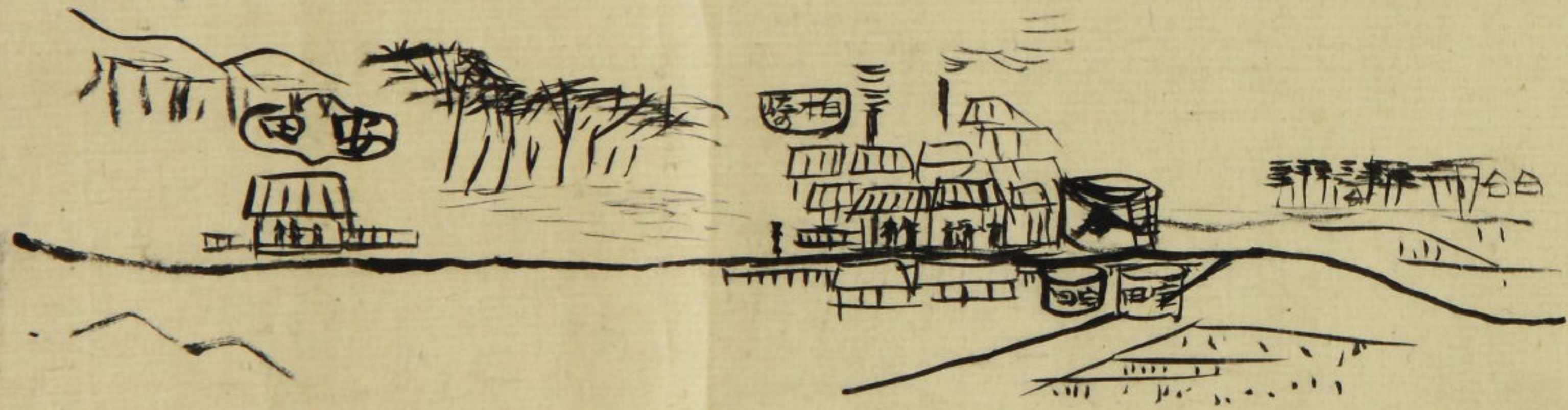


(林風防) 林松

里鉢

里河

里河



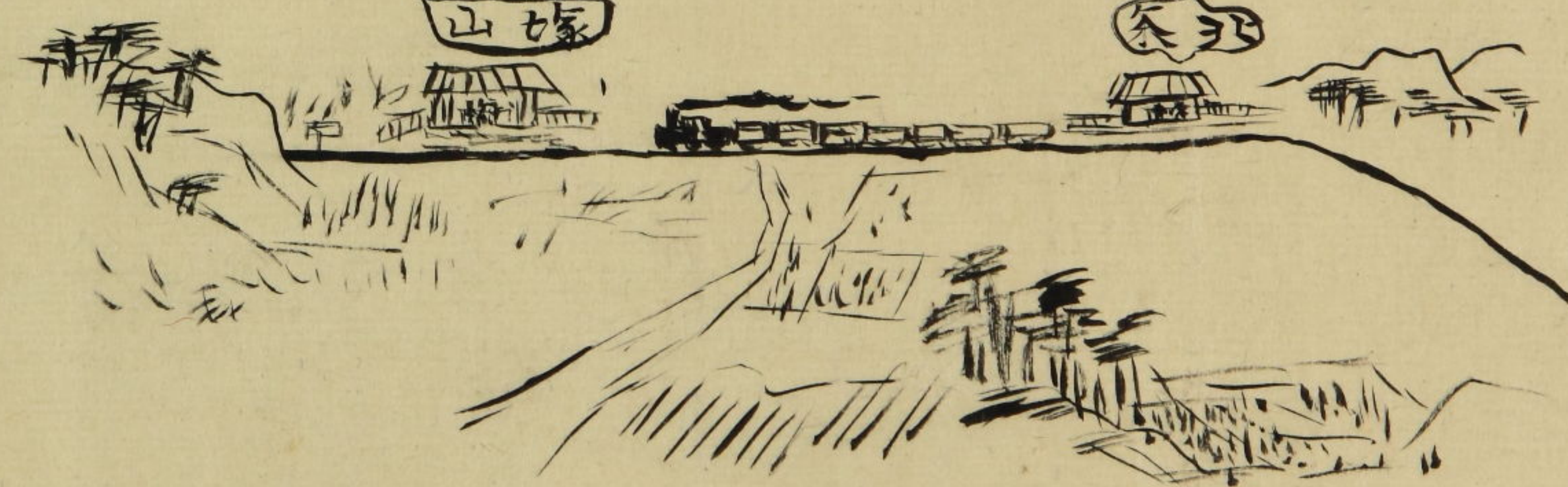
大田



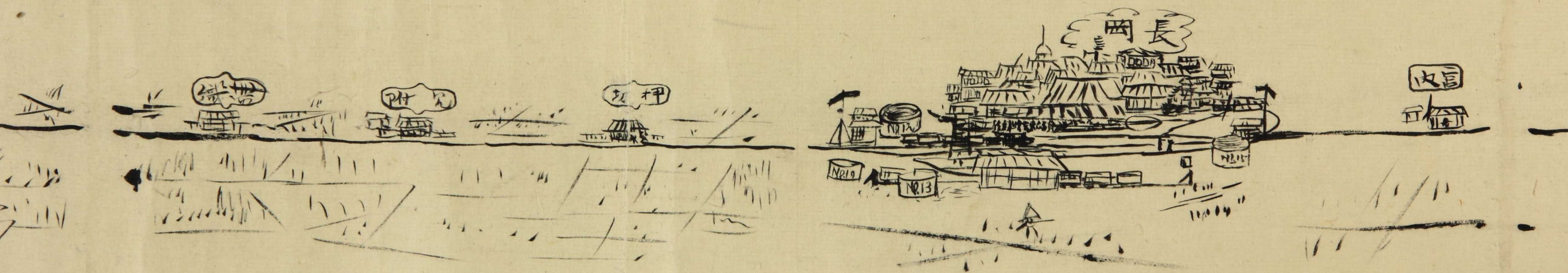
寺田末



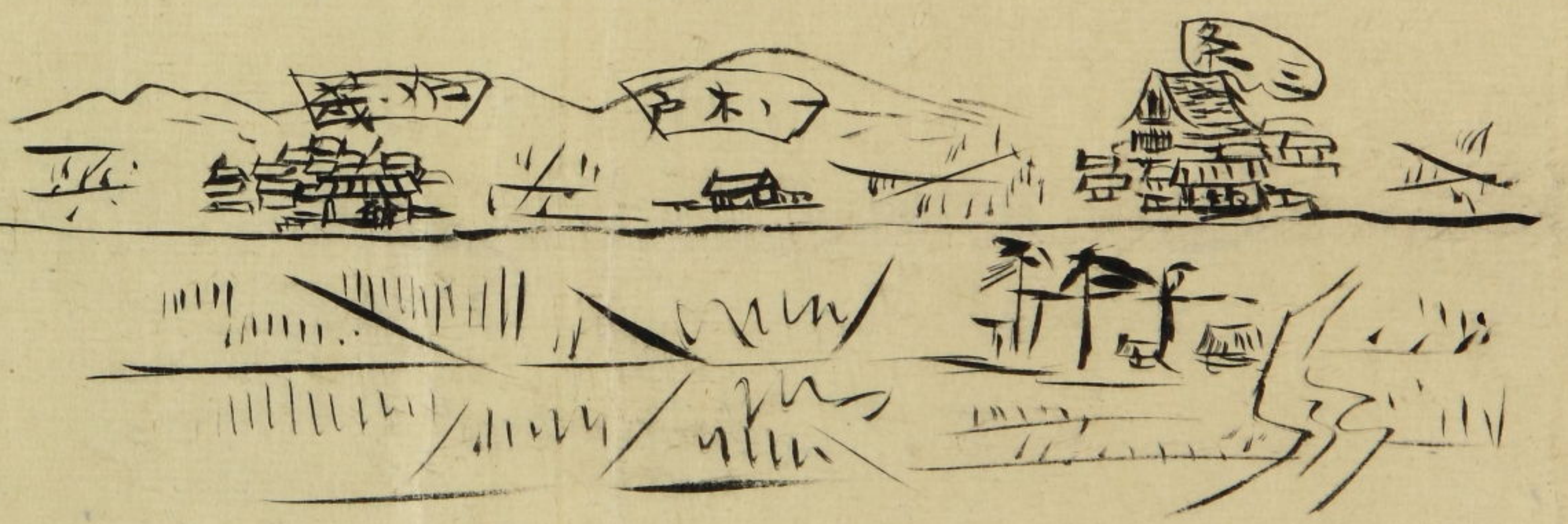
山家

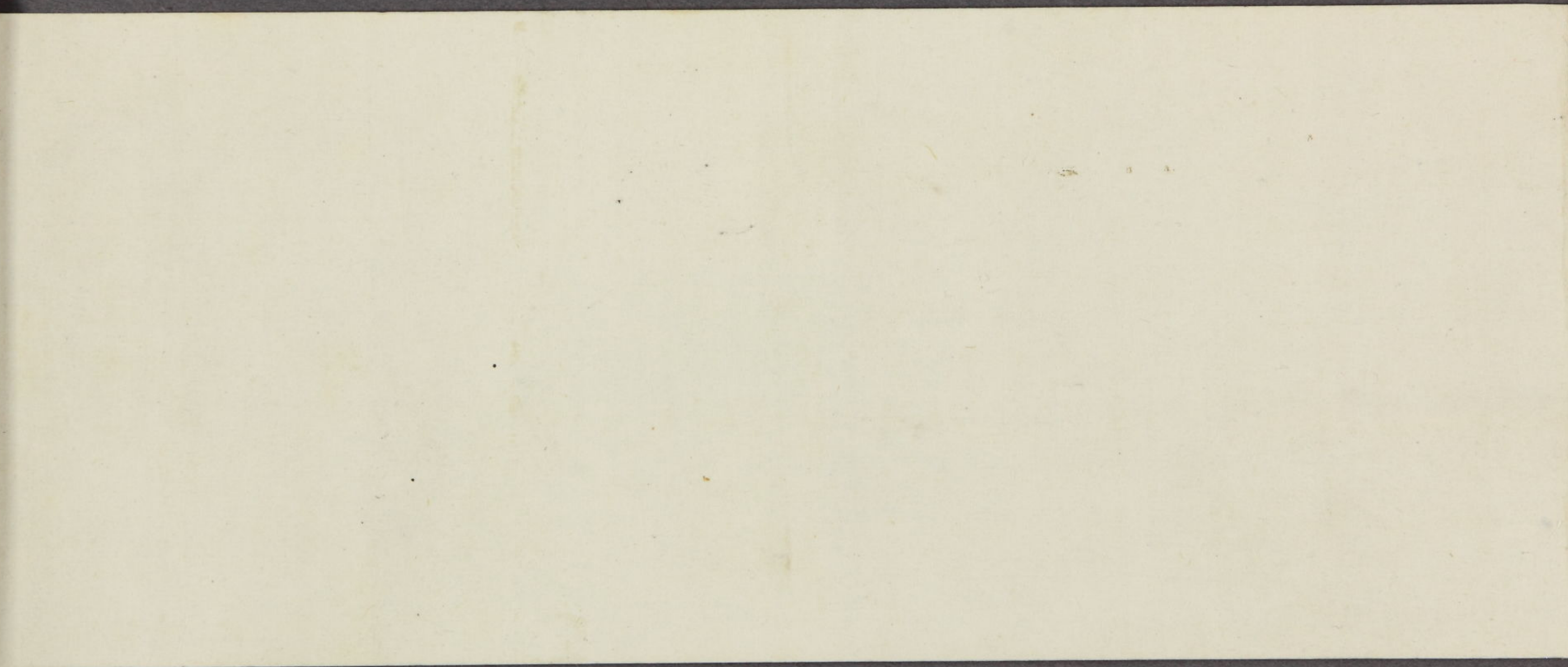


家田

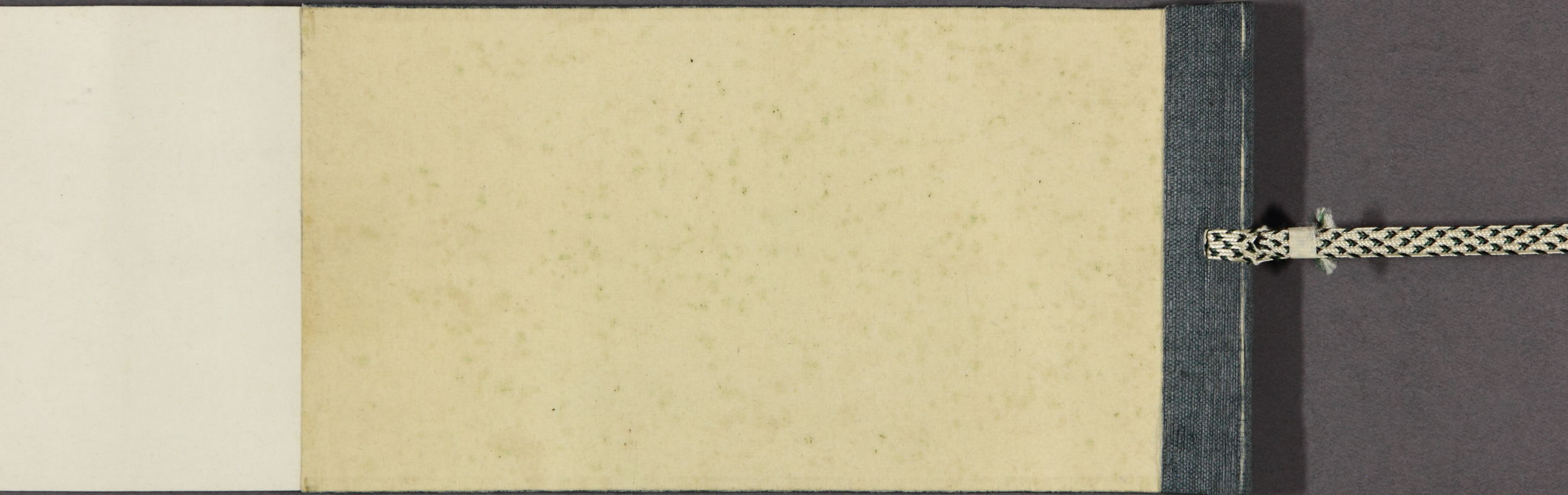
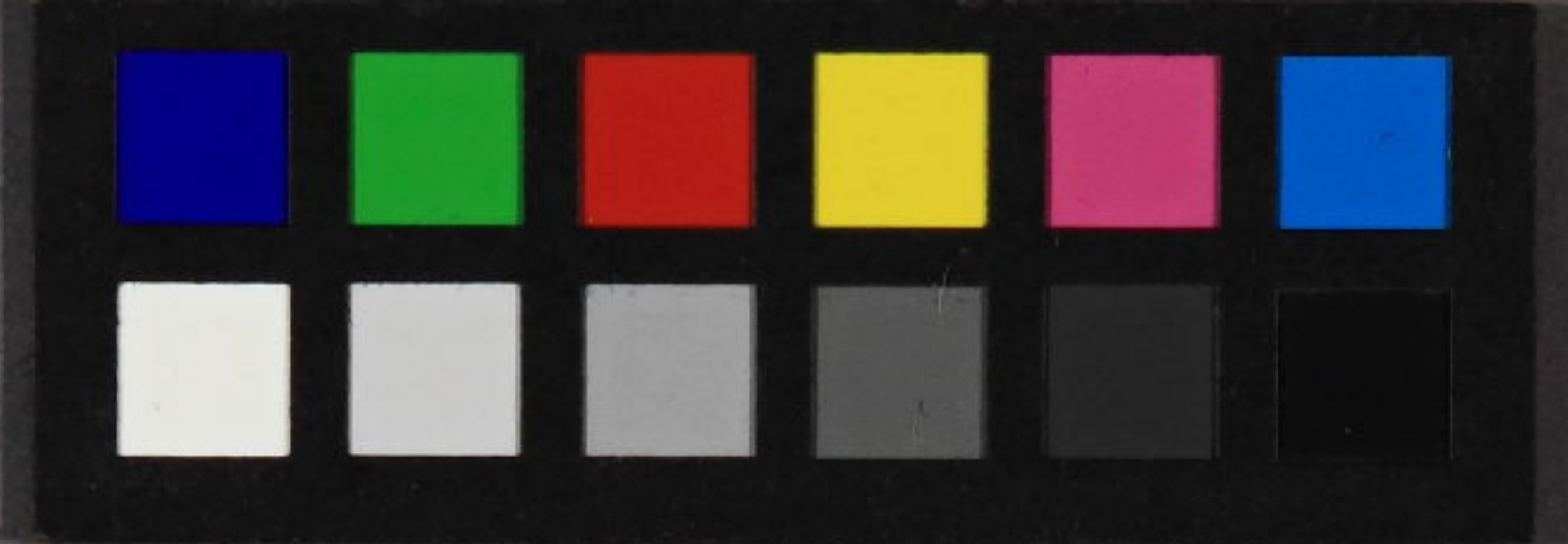


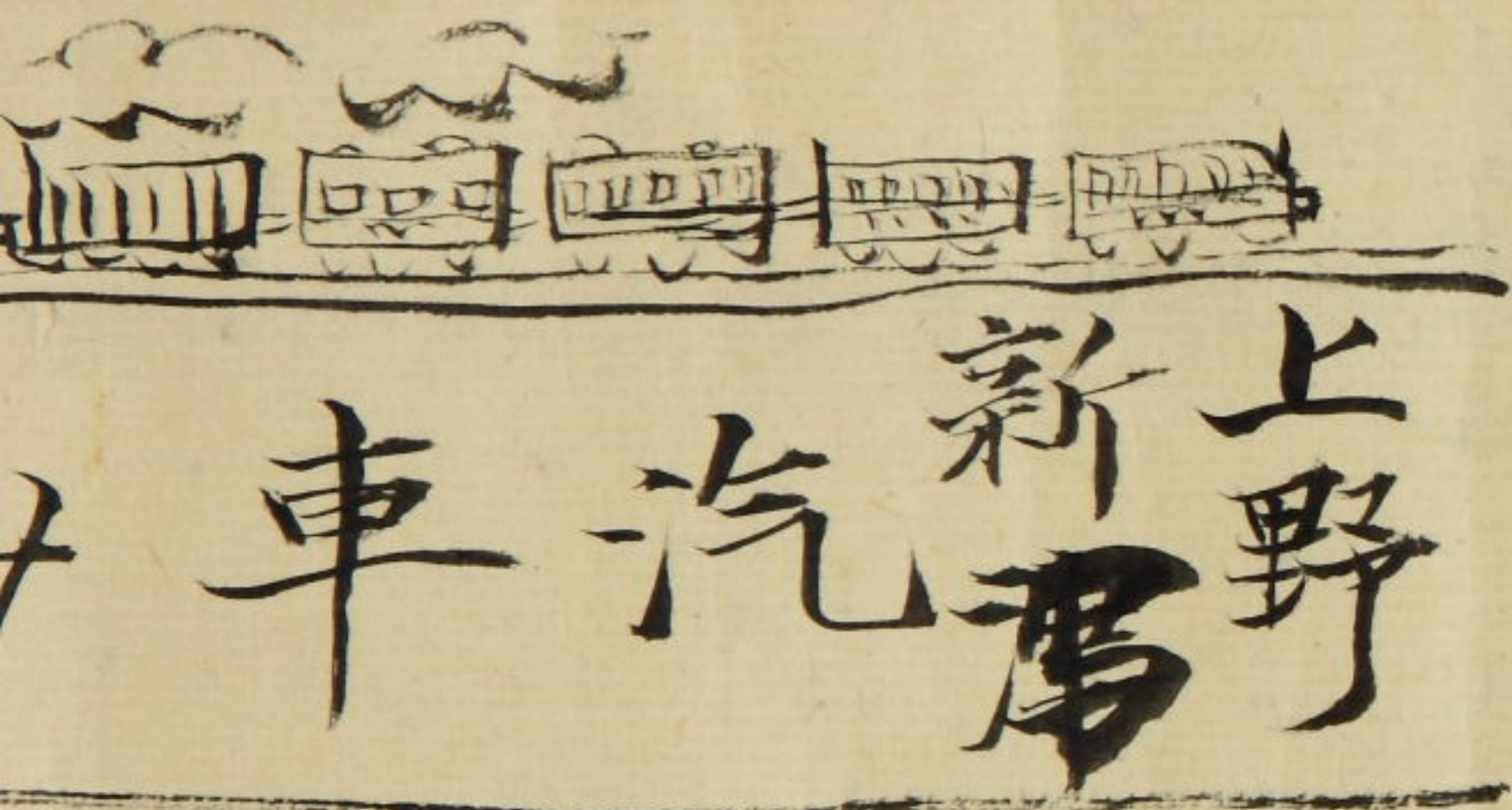
油田地





Handwritten text in Chinese characters, including a red seal impression, located on the right edge of the scroll.

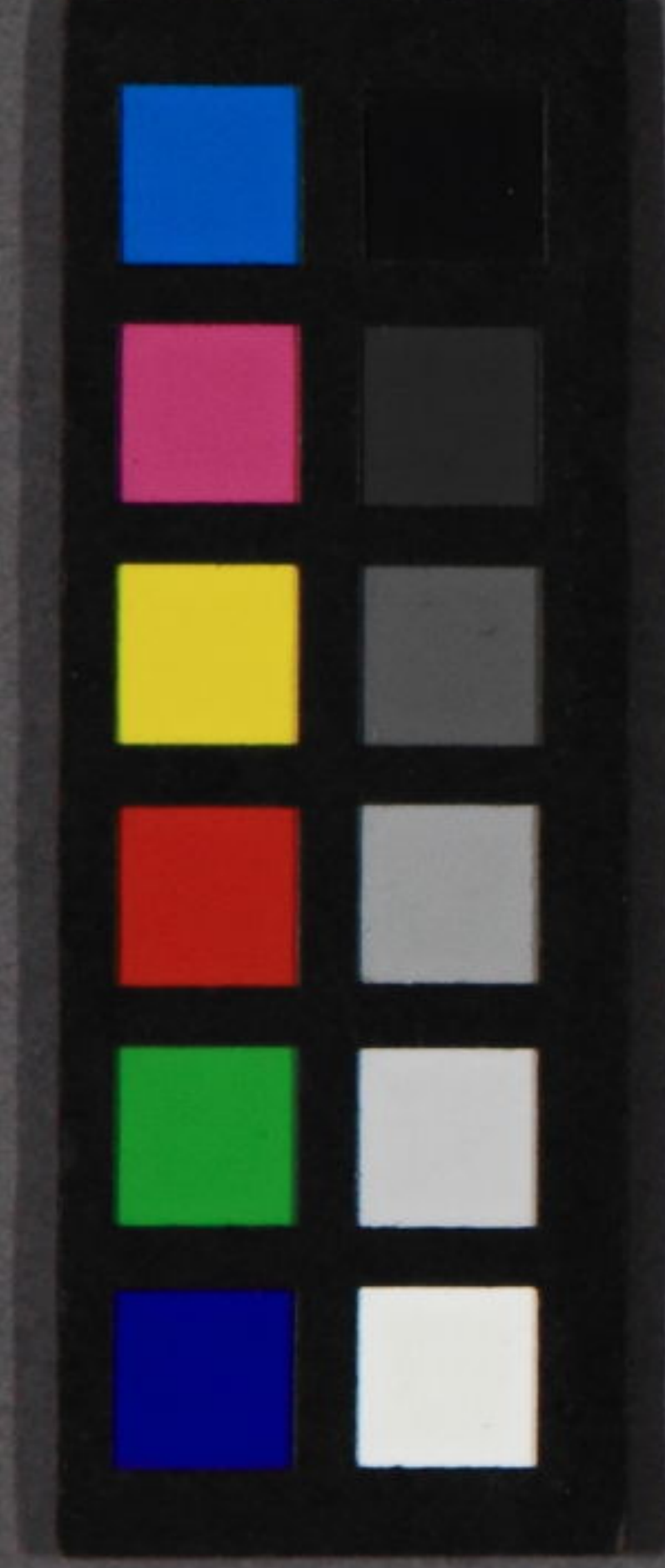




上野新
汽車
車

作者 辰々



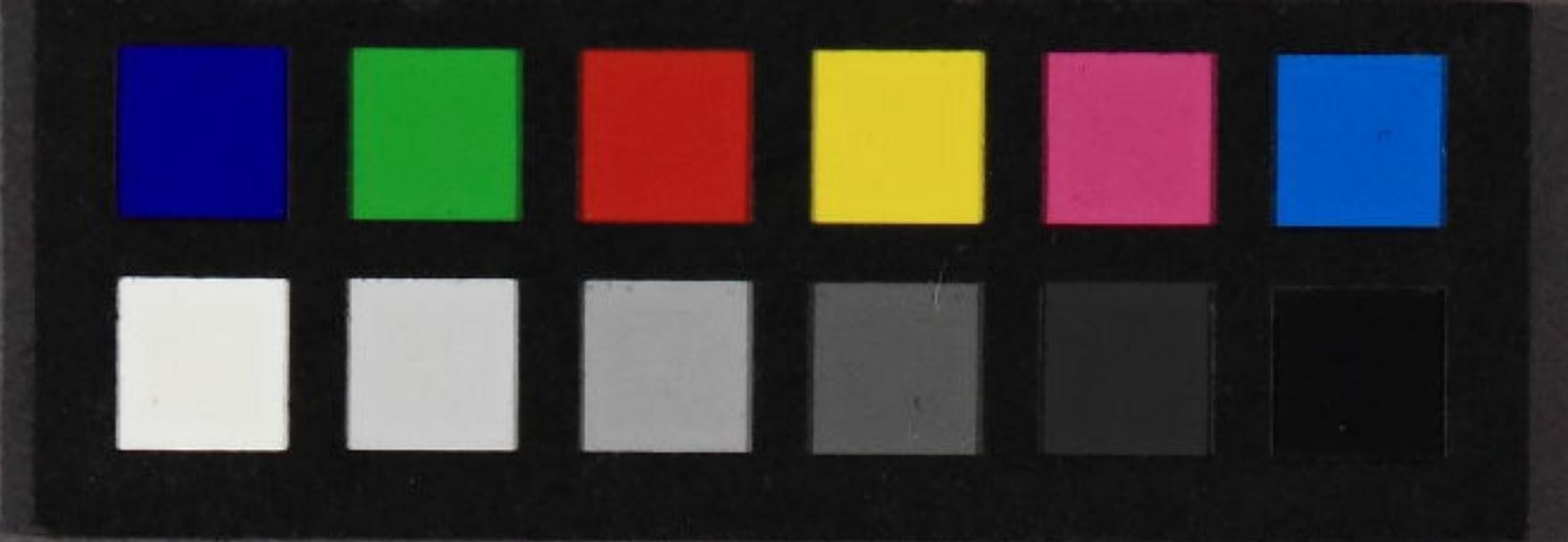


吉田東伍筆
上野新渡



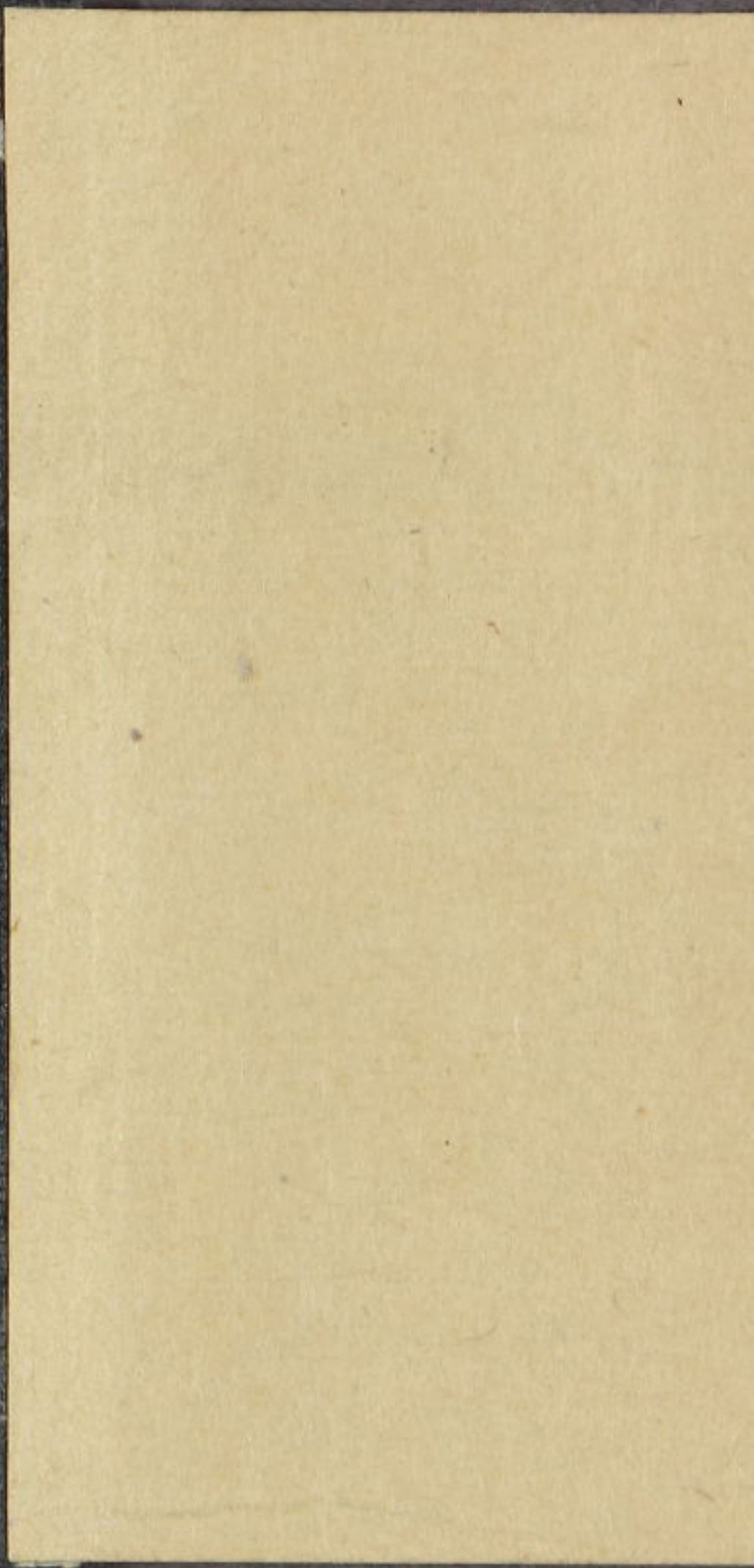
特別
73
3838





吉田東伍筆
 上野新海
 氏車道
 図繪

特別
 'ツ3
 3838



解説同封

大日本地名辞書の著者

文学博士 吉田東伍筆

上野・新沼間 汽車道図絵

栗山萬葉老荘文庫

吉田東伍の略歴と大日本地名辞書
入手の経緯同封



文學博士吉田兼作
上野新得間汽車道圖繪

上野新得間汽車道圖繪

吉田兼作の略歴と大日本地名考書
入手の経緯同封

栗山萬葉老莊文庫





兄弟位君兼弟
 弟安作藏品

